

森づくりの大切さ体感

J Tの森 中津川 社員らマイ箸作り



紙やすりなどで磨いた木箸に、自身の名前などを刻印する
参加者＝中津川市蛭川、ひとつばたご広場

年2月には協定を再延長し、継続的に関わりを深めている。

この日も間伐、枝払い、遊歩道整備を実施予定だったが、断続的な雨により、木箸作りなど屋内で実施できるイベントに変更。参加者は市内で自然体験塾「栗くり工房」を主宰する栗谷本征二さんの指導の下、温かみがある山桜の木を使った箸を製作。自身の名前なども刻印し、世界に一つだけの「マイ箸」を完成させていた。

J T岐阜支社の景山徹也支社長は「屋外での活動ができなかったことは残念だったが、社員同士や地元の方との交流も深められた」と語った。(富樫一平)

中津川市蛭川の「J Tの森 中津川」で、森林保全の活動を続けている日本たばこ産業(J T、東京都)の東海地域の拠点に勤める社員とその家族らが18日、同所一帯で、木製の箸作り体験などを行い、森づくりの大切さについて改めて思いをはせた。

同社は2008年に県、同市との間で、森林づくりに関する協定を締結。蛭

川地区の森林13・39鈐を「J Tの森 中津川」として、間伐や里山整備などの活動を展開してきた。今